



# 「人が裸であること」

(創世記二・二五―三・七)

校長 高柳富夫

創世記一章から二一章の原初史には注目すべき二つの問いが記されています。「あなたはどこにいるのか」(三・九)「あなたの兄弟はどこにいるのか」(四・九)という問いです。

二つの問いは、アダムとカインにのみ限定して問われているのではありません。人間が神の前で神と共に生きようとするとき、どうしても聞き逃すことのできない、最も重要で根源的な問いだと、物語の著者によって表明されているのです。

二つの問いは、人間学的な問いにとどまるものではなく、神学的な問いです。人間は、神の前で、この二つの問いを常に真剣に、深刻に、問われている存在だということなのです。

「あなたはどこにいるのか」。この問いに、神の前で、他の誰かではなく、あなた自身は

どう答えるのか。「あなたの兄弟はどこにいるのか」。この問いに、神の前で、自分の兄弟はどこにいると答えるのか。

あなたの兄弟とは、アベルに限定されるものではなく、この問いはカインにだけ問われているわけではありません。

あなたの兄弟とは、あなたと共にいる他者、隣り人のこととす。人間は、神の前で、神との関係において、自分の隣り人はどこにいるのかと、常に問われている存在なのです。

これらの問いにどう答えるのか。物語の著者は、大変興味深い考えを示しています。この問いの前で、人間が取る態度、応答の仕方には、典型的な二つのあり方があるというのです。

一つは、この問いの前で、自分が裸であることを恥じないあり方です。そしてもう一

つは、この問いの前で、自分が裸であることを恥じるあり方です。

二章二五節に「人と妻は二人とも裸であったが、恥ずかしがりやしなかつた」とあります。岩波版「創世記」は、「人とその妻、彼ら二人は裸であった。彼らは互いに恥じることはなかつた。」と翻訳しています。その注解で、ここは新共同訳のように「裸であったけれども」と読むのではなく、「裸であったがゆえに」互いに対し自らを恥じることがなかつたと読めるのだと言われています。

裸であったけれどもではなくて、裸であったからこそ恥ずかしがらなかつたのです。裸であることは、この著者にとって否定的、消極的、恥すべきことではなく、むしろ積極的に肯定すべきこと、人間にとって大切な事柄であったのです。人間は神に対しても、隣り人に対しても、裸であることが大切なのだというのです。

人が裸であるとは、神の前で、人はすべて本来裸であつて、まったく対等な存在だという意味です。自分を自分以上によく見せようと誇示したり、自分を恥じて隠蔽したりする必要はないということなのです。いろいろと身につけ身にまつて裸である自分を隠す

必要はない。あるいは、裸であることを隠蔽し、他者と自己を比較し、序列や格差や差別に生きてはならないということなのです。

つまり、神の前であつて、人は本来、上下・主従・優劣の関係を前提にして、支配と被支配の関係に生きてはならないという主張が込められているのです。ですから、神は二章一八節で「人が独りでいるのは良くない。彼に合う助ける者を造ろう」と言うのです。

この翻訳は、問題なしとは言えません。「彼に合う」とは、原典にはどこにも書かれていないからです。「彼に合う」では、彼が中心になります。文語訳も「彼に適う」、口語訳も「彼にふさわしい」と訳しました。

こういう翻訳は、翻訳者の中に刷り込まれている男性中心の感覚を読み込んで、男性中心を助長し、女性は男にふさわしい助手として造られているという解釈を固定化します。

さらに言えば、これは男女の関係に限って言われていることではないのであつて、人間関係すべてにおいて、中心と周辺という仕方で、人間を分断することを、当たり前前に固定化していくことにもなるのです。

ではなくて、「彼と向き合う」と翻訳すべき言葉です。岩波版では、「人が一人であるのはよくない。彼と向き合うような助け手を造つてあげよう」と訳されています。互いに対等でないければ向き合うことはできません。

原初史全体の中心テーマを一言で言うのはたやすくありませんが、私は、人間の対等性、相互性、連帯性を明らかにして、人間が人間を支配することは、神の前であつて赦されていないことを示すことにあると考えております。原初史には随所に権力批判、王権批判が語られていることを、読み取ることができるのです。

人間が、支配・被支配の関係を変革し、対等で相互的で連帯する関係を築く道を選び取ることを、それが、裸であることを積極的に肯定して、その意義を十分に生きることなのです。

これに対して、二つの問いの前で、人間が選ぶもう一つの道は、裸であることを恥じて隠蔽するあり方です。アダムとエバは、お互いが裸であることを知った時、まずお互いに対して裸であることを隠しました。そして、「あなたはどこにいるのか」と神から問われた時、人は神を恐れ、神の顔を避けて、神から自分の

身を隠します。なぜなら「わたしは裸ですから」と、身を隠した理由を述べています。お互いが裸であることを恥じ、神に対しても裸であることを恥じたのです。

そのすぐあとで、人間がとった行為は、自分の責任を他者に転化することでした。他者に対して裸であることを恥じる道を選び取ったということとです。互いに裸で向き合う、対等で相互的で連帯する関係は崩壊しました。そして、これこそが、神が警告した「必ず死ぬ」ということでありました。

いま、「神学する」新しい歩みが始めるにあたり、「神学する」営みとは、究極的には「あなたはどこにいるのか」「あなたの兄弟はどこにいるのか」という二つの問いに収斂していくものであると考えさせられております。

この二つの問いの前で、ど

## 二〇一六年度より カリキュラムを改定します

農村伝道神学校教師会は、二〇一三年度以来カリキュラム改定のための検討会を毎月一回開催してきました。農伝が取り組む神学教育のあ

ちらの道を選びとって行くのかが問われています。神学することによって、いろいろと身につけ身にまとうて、自分を誇示し、裸であることを隠蔽していく道を歩むのか。

それは、対等で、相互的で、連帯し合う関係を築いて行く道を破壊して、序列や格差や差別を生み出す道へとつながっているのだということ、心に止めたいと思います。神の前において、人間は本来、上下、主従、優劣の関係を前提にして、支配と被支配の関係に生きてはならないのだ。

それは、人間を生かすのではなく、必ず死ぬことになるという神の警告を、真摯に警告として聞き取って、死ぬことから生きることへと、しかも互いに共に生きることへと至る道を、選びとって歩んで参りたいと、祈り願う者であります。

(入学式メッセージより)

### 農村伝道神学校教師会

り方を真摯に考え続け、キリスト者として教会として、現代世界への宣教の課題を見出し、それをしっかりと担っていきたくと考えて、カリキュラ

ム改定のための準備を重ねてまいりました。

学生会、理事評議員会、講師会、同窓会、後援会のご意見も伺いながら、二〇一六年度よりカリキュラムを改定すべく基本的な考えをまとめましたので、ここにその理念と実際をお伝えし、農伝の神学教育に関心を持ち、お支えくださる皆さんのご理解をいただき、皆さんからの更なるご協力をいただきたいと願っております。

### 宣教の学としての農の神学

教師会は二〇〇四年に「農村伝道神学校の進む方向について」を打ち出し、「農」にかかわり、戦争責任を担い、大地と共同性を重んじる神学教育の方向性を示してきました。この方向性を継承して行くことに変わりはありません。

その上で、農伝の神学教育の核心は、イエス・キリストのリアリティーを伝え、かつそれを生きたる「宣教の学としての農の神学」にあることを、これまで以上に明確にして参ります。農伝の「農の神学」のテーマは「農と食といのち」にあります。現在の世界、また日本の国家・社会の有り様は、様々な局面で大地・自然を破壊し、食を汚染し、いの

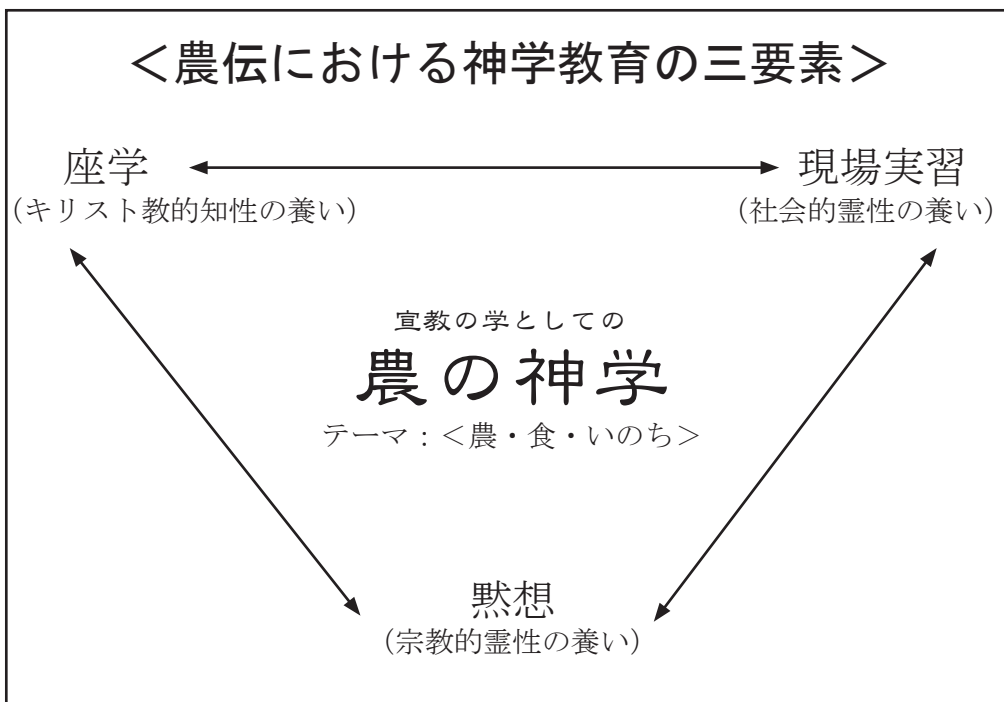
図1

ちを脅かす問題に満ちています。原発の問題、沖縄の新基地建設問題、憲法の平和主義を破壊する安全保障政策等々に、「いのち」を脅かさないがしろにする日本社会の根源的な問題が噴出してきます。農伝の神学教育はこの現実をしっかりと見据えて、何よりも「い

のち」を生かす宣教の働きを担う宣教者を養成することに努めて参ります。

### 神学教育の三要素

そのために、図1に示されているような三つの要素を大切にして、それぞれを関連さ



せ合う神学教育を行っていきま。一つは《社会的靈性を養う》現場実習です。これは、創立以来農伝が最も力を注いできたことであり、長年の積み重ねがなされてきました。農伝の神学教育は理念を確立してそれを現場に当てはめていく演繹的な方法ではなく、常に現場に注目し、現場との往還の中でなされていく帰納的な「現場の神学」であるという自覚はこれからも変わることはありません。真実は現場にこそあるのであり、現場における弱者の側に身を置いて、人間を分断し差別や抑圧を生み出していく様々な境界線を突破していく神学を追究して行きます。

二つ目は、《キリスト教的知性の養い》としての座学を充実させていくことです。現代神学(者)の課題を研究対象とする多くのすぐれた講師陣による、新鮮な問題意識に根ざした刺激的な座学がなされるように、これからも努力して参ります。歴史的伝統的な神学上の諸課題との対話を重ねながら、これまでの神学の積み重ねを視野に入れつつ、新しい問いを積極的に受け止めて神学する行為を追求していきます。

そしてもう一つは、先の二つの要素を根底から支えるものとして、《宗教的靈性の養い》としての「黙想」の経験を深めて参りたいと考えております。「自己の本質」とは何かという問いにじっくりと向き合い、身体性を通して黙想の経験を深め、根源的な「いのち」に出会う体験を豊かにしていきたいと思えます。これは特にプロテスタントキリスト教の神学教育が長く軽視してきたものではないかと考えます。

神学基礎コースと神学専門コース

以上の三つの要素の有機的な連関をベースにして、四年間の修業年限をそれぞれ二年ずつ神学基礎コースと神学専門コースに分けます(図2)。さらに、神学専門コースを教職者養成コースと信徒宣教師養成コースに分けて、二年間の基礎コースが経過したところで、いずれのコースに進むかを選択できるようにいたします。また、信徒宣教師養成コースは一年間と二年間のコースを選択できるようにすることに考えております。さらに、選択したコースから他のコースへの移行もできるように考えてまいります。

このコース分けのねらいは、神学教育における教職中心主義を克服して、信徒の宣教力

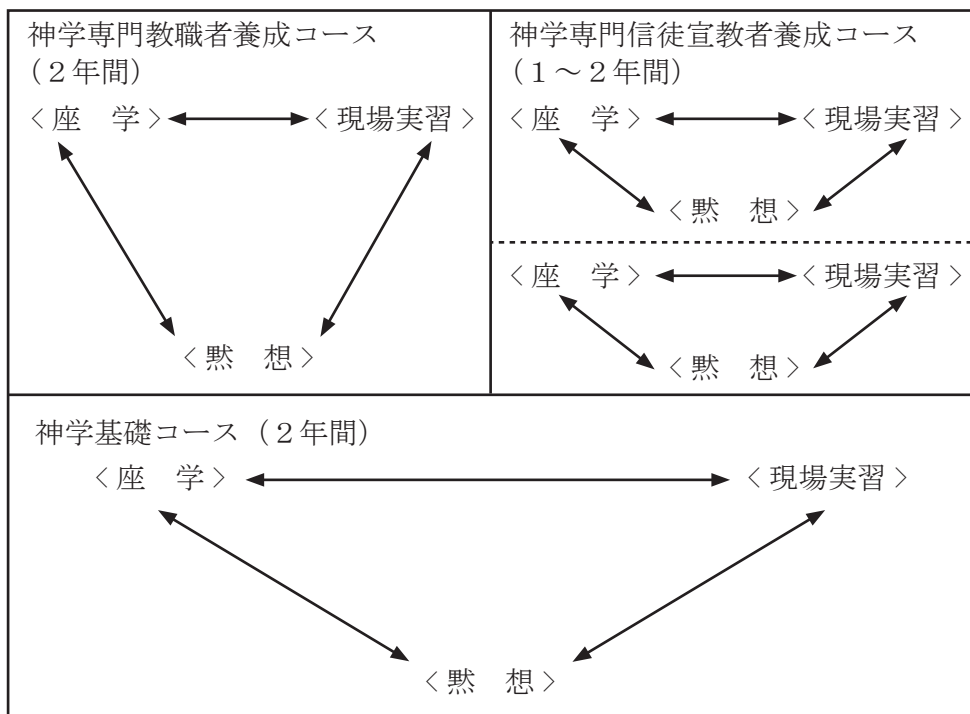
を養成する神学教育の使命を果たしていきたいことにあります。今日、とりわけ地方教会の切実な課題は、一つの教会に一人の牧師を迎えることが困難な状況がある中で、幾つかの教会を兼牧する牧師と協力し、牧師の働きを支え、さらには礼拝説教をも担当す

る信徒の礼拝リーダーや、牧会活動や幅広い宣教活動を担うリーダーなど、しっかりと教育を受けた信徒の宣教力を養成することにあると思っております。

現在の日本基督教団には信徒の宣教職を積極的に位置付

カリキュラム構成図

図2



ける職制はありません。しかし、「信徒牧師」や「レイ・リーダー」と言われるような信徒の宣教職の養成に真剣に取り組んでいく必要があると考えます。農伝には創立の当初より「農民信徒」を育成するという基本的な姿勢がありました。創立間もない頃、信徒宣教師の養成を視野に入れた通信教育制度があり、非常に多くの受講者が存在した記録があります。また、その受講者の中から教職者として立つ人々も輩出してきました。いわゆる「伝道圏伝道」を現代宣教の課題として推進するためにも、信徒宣教師の働きを積極的に位置付けて行こうとする働きが当初よりすでになされていたことが窺えます。

そのためのコースとして、新しいカリキュラムでは、神学基礎コースを二年間で終了することも可能ですし、さらに一年間または二年間神学専門信徒宣教師養成コースで学習を継続することも可能です。農伝は現代宣教(者)の課題を積極的に担って、託された使命をしっかりと果たす神学教育に取り組んで参ります。今後とも、皆さまの篤いお祈りとお支えとを、心よりお願いする次第です。どうぞよろしくお願いいたします。

(文責・高柳)

追悼

稲葉信一牧師



一九八七年に卒業し、大台めぐみ、久居新生、福井神明の中部教区の働きの後、昨年北海教区の中標津伝道所に移り、秋に発病「余命三カ月」と宣告されました。稲葉牧師から電話で伝えられた時、嘘であつて欲しいと心から願いました。吉原教会から農伝に入学し、生田教会での神学生時代、多くの教会員に慕われました。子どもの頃、困難で厳しい家庭環境で悩んだ彼が、「牧師になつて本当に良かった」と述べたのは、困難の原因の長く疎遠であつた父上の葬儀を自ら執り行つての言葉でした。自分の体験からか困難の中にある人への関心は大でした。生前「部落解放センター」に関つたのもその延長でしよう。教会員の募金を携え一月に中標津に見舞ました。延命治療をせず死を覚悟の彼と折つて別れて一カ月後、残念ながら六二歳で召さ

れました。もつと牧師職を続けて欲しかったと思います。しかし長男の義也さんが教師試験を目指しているのは一条の光です。 禿 準一

学事報告

◆四月一日(水) 午後一時半 第六七回入学式 二名入学。鳥羽加陽子(復活のキリスト徳高教会)、吉野結(教団飯能教会)

◆四月二日(木) 始業講演 校長高柳富夫

◆四月七日(火) 前期授業開始

◆五月八日(金)・九日(土) 日本神学教育連合会総会 京都にて 校長出席。

◆五月三二日(日) 日野台教

2016年度入学案内

◆受験資格

- (1) 日本基督教団に限らずプロテスタント教会に所属し、原則として受洗後1年以上(洗礼式を行わない教派については、それに準ずる)の教会生活をしている者。(2) 所属教会が推薦し(可能であれば)、高卒または同等以上の学力を有すると認められる者。

◆修業年限

- 神学基礎コース: 2年間(2年間で修了することも可)。
- 基礎コース修了後、神学専門コースに進むことができる。
- 神学専門教職者養成コース: 2年間
- 神学専門信徒宣教師養成コース: 1年間または2年間

◆学費

- 入学金 60,000円(入学時のみ)
- 授業料 240,000円(年額)
- 設備費 30,000円(入学時のみ)

◆受験手続

- 次の書類を期日までに郵送または持参する。(1) 入学願書(本校指定の書式)
- (2) 履歴書(本校指定の書式)
- (3) 教会(牧師または役員会)の推薦書(可能であれば)
- (4) 最終学校卒業証明書(または卒業見込み証明書)
- (5) 受験料 10,000円(振り込み)

◆入学願書受付

- 第1回 2015年10月6日(火)~11月6日(金)
- 第2回 2016年1月5日(火)~2月5日(金)

◆入学試験日時

- 第1回 2015年11月25日(水) 午前9時~午後3時
- 第2回 2016年2月24日(水) 午前9時~午後3時

◆会場 本校教室

◆入学試験科目 (1) 小論文 (2) 旧約聖書・新約聖書 (3) 面接

◎入学願書一式、過去の試験問題集は、本校事務室まで請求ください(無料)。

農村伝道神学校

〒195-0063 東京都町田市野津田町2024  
Tel 042-735-5775 Fax 042-735-5711  
Eメール: noden@pony.ocn.ne.jp  
ホームページ: http://www.noden.server-shared.com  
振替番号  
農村伝道神学校 00160-6-18485  
農村伝道神学校後援会 00120-6-24418

お知らせ

◇神学科同窓会

日時: 六月二十九日(月)~七月一日(水)

一日目: 「アジア学院の今」大津健一(アジア学院理事長)

二日目: 足尾銅山と強制労働(フィールドスタディ)

◇二〇一五年度学内修養会 日時: 七月二日(木)~三日(金)

講師: 上地武氏(大正めぐみ教会牧師)

テーマ: 沖縄の今に向き合う(仮)

◇台湾玉山神学院交換交流 日時: 七月四日(土)~八月二日(日)

ピナ・パララヴィ(ブスン族)とザイライ・ザイ(パイワン族)の二人の学生が来日。農伝、仙台エマオ、北海道、名古屋、寿地区等で研修を行う。

会主催 一日農伝デー 礼拝 説教を禿理事長が、午後の講演を高柳校長が担当した。

◆六月二日(火) 第三六回農村伝道神学校戦争責任シンポジウム 午前10時~午後三時 講師: 崔善愛氏

テーマ: 「私がたどつた道」ヘイトスピーチ、植民地主義、天皇制

理事・評議員等が任期により改選された。新評議員は次のとおり。(傍線のかたは理事を兼任。)

本田栄一、高柳富夫、大沼洋美、中平望、禿準一、横野朝彦、瀬戸英治、島しづ子、大倉一郎、滝澤貢、古川力也、大澤錦一、大津健一、比企敦子、小海基、安部一徳、中台厚。

理事評議員報告

監事は次の二名。公森健郎、加藤忠良。

新評議員となった大倉一郎氏は、神学校教師として学院代表者会議による選任。中台厚氏はYMC Aオベリン保育園施設長であり、学識経験者として選任された。

國安敬二氏と尾毛佳靖子氏は退任された。長年のご貢献を心から感謝したい。

神学校は二〇一六年度より神学基礎コース、神学専門教職者養成コース、神学専門信徒宣教師養成コースを設けることとし、また学費改定により、関連する学院寄付行為等を変更した。学院設立当初目指された「農民信徒の養成」の精神を生かしていきたい。幼稚園は保育料にかかわる園則の一部を変更した。(書記 横野朝彦)